

## 讀者の領分

注

長文及水彩畫に無關係のものは御座り。  
◎印は編者の答、投書者の要點のみを掲ぐ

■繪ハガキ競技會は毎月開催されたい一には會員の交情を温め又一には各自の研究にもなる、此望みは僕一人ではあるまい、次に朽木春翠君に風景の水彩を一枚送つたが何の返事もなし不信用極まる(麴町の一會員) ■一 口畫原畫の寸法は每號指示されたい二 遠近法の出版一日も早からんとを希望す(神戸MY生) ■『みづゑ』第一より第二十迄一部金十錢にて同好者に譲りたし(京都元誓願寺大宮西入益井) ■一 肉筆繪畫交換に就て二葉君の意見面白し至急實行の運びに至らんとを本會主事に願上候二 未見の誌友枯星中臺君の長逝を悲しむ(月艸生) ◎一 思ひ立つた方はスケッチブックに會員の住所姓名を列記して送つたらよいでせう、會員の住所姓名は入會の都度本誌に出ておます ■一 大坂開催の講習會に丸山先生の御出席を希望す二 口繪の三色版は原畫の色彩を認め難し石版にされたし三 近頃の表紙はお粗末千萬是非復舊されたし(大坂龍東生) ◎一 開期が同じ故出席は困難ならん二 現今の技術の程度にては石版にても決して原畫の色彩を示さず、且眞に力をこめたる水彩畫は其複雑なる形狀濃

淡色彩共到底石版にては現はし難し、但し石版の方結果よしと思はるゝものは其方を採用するは勿論なり三 前の表紙は一時に三割以上も値上を申出て且到底十八、十九のやうな立派なもの出来ぬとの事、不得止石版にしたり、經濟の方が許せばドンナにても立派にすべし當分辛抱せられたし且美術雜誌といへばとて必ずしも表紙の美しいもの許りではない、スツヂオもアートマガジンも矢張りお粗末なものである ■『みづゑ』二十四は當町の書店へ参りません困ります(陸奥福岡田中生) ◎直接本會へ御注文ありたし ■僕は大阪の講習がたのしみで、今から毎日指を折つて待つてゐる、僕と同感の人は多いことだらう(關西畫狂兒)

## 編者より

◎立花氏へ「夏野の花」は花をモット明るく出した「夏野」は中央の花をドチラへか片よせたく又野の色を明るく遠近の見ゆるやうにされたい ◎田中氏へ 緑の色に變化なし水の描法甚だ不親切なり ◎高橋氏へ 三枚のうちにて船に白衣の人ある分面白し但水際としても森の左に遠景の見えぬはよからず ◎海老名氏へ 雨の圖は結構、小川及町の圖は甚だ粗末な寫し方にてスケッチとしても今少し纏まつた處がなくは不可な

り、觀察を密にして色彩の變化等を描出されたし ◎鈴木氏へ エメラルドクリーンの使用を慎まれたし ◎松尾氏へ 畫が固く調子も強きに過ぎ色も單調なり一色畫から勉強のやり直しを爲し給へ ◎大森氏へ 松尾氏と同評、濃淡の調子が甚だ不充分である ◎筒井氏へ 館賣は佳作傘が明るかつたら猶よからん、町は色彩があまり單調なり ◎工藤氏へ 三枚のうち市中の圖が一番よろし前の板塀と先の人家と離れて見えぬ、他の二枚は濃厚に過て不自然なり、神社の方は線の中に赤味が足りぬ爲め色が寒く感じる位置もモット社を現はした方がよい

■大阪女子師範學校内常盤會の催にて、八月二十日頃より同校圖畫教師及び大下氏を講師として、女子のみの水彩畫講習會を開くこと可相成目下交渉中に御座候。就ては出席希望の方は、同校常盤會又は本會へ概め御申込有之度候  
□遠地より桃山の方へ講習に御出席の方に於て、十五日間を嫌らずとせらるゝ人々有之候が、若し前記女子講習の方成立致候時は、講師は引續き大阪に滞在可致候間、夫等の人々のために毎日一二時間を頒ち得べしと存候